

2017年度 年主題〈愛されて育つ〉

1・2歳児 1月主題「まもられて」

月のねがい

- ◎神さまを身近に感じる
- ◎友だちと一緒に遊ぶことが楽しくなる
- ◎伝承遊びにふれる

3・4・5歳児 1月主題「守られて」

月のねがい

- ◎神さまが守り導いてくださることを知る
- ◎繰り返し取り組むことで、原因を見つけたり、コツをつかんだりする
- ◎健康に過ごすための生活習慣を身につける



誰かのためにできること～分かち合い

1月3日は市民会館で成人式が行われ、私も参列してきました。その中で、「成人という時を迎え、今まで育ててくれた両親に感謝したい。そしてこれからは、自分の出来ることで恩返しをしていきたい！」と、新成人が力強く誓いを宣べていました。「してもらふこと」に喜びを感じることは、「してあげる」ことにも喜びを感じるのだと実感し、嬉しく思うことでした。

パキスタンのマララ・ユソフザイさんは、武装勢力の襲撃を受けながらも、「すべての子どもに教育を！」と唱えて活動し、その勇気ある行動が讃えられて、17歳でノーベル平和賞が授与されたことはまだ記憶に新しいことです。彼女を賞賛し、支援する連帯の声は世界中に広がりました。

しかしながら、ロヒンギャをはじめ世界のあちこちで、深刻な迫害や対立による難民生活を強いられている人々のことを私たちは知らされています。世界の中でも最も安全で人権が守られていると言われる日本にいる私たちです。だからこそ、苦しい生活を余儀なくされている方々のことをアンテナを張って覚え、心を寄せていくことが大事ではないでしょうか。わずかでも分かち合い、誰かのために出来ることを私たちが自身が経験していきましょう。2学期の終園式に、子どもたちに「世界の貧しい人たちのために、お年玉やお小遣いの中から持ち寄りましょう！」と話をしています。お子さんと話し合った上で、義捐金に協力をして頂ければ幸いです。 園長



今月の聖句

「主は、あなたをまもるかた。」

詩篇 121:5

新年のお慶びを申し上げます。あわせて、子育て中の皆様の上に神様の祝福と加護がありますようにお祈りいたします。

「一年の計は元旦にあり」とは昔からの言い伝えであり、今日尚真理であると思います。一年の計を建てるにあたり、重要なことは何を基準に立てるかです。冒頭のことはその答えを示していると思います。創造主である神がいつも守っておられるので、「神の思いをわが思いとする」ことが、平和と自立の基本になります。人生は「選択」の連続です。成功も失敗も出発点は自らが良かれと信じて選んだ結果です。結果を反省分析し、次の選択に活かすことが一般的です。それでも再三、再四失敗することがあります。それは、自己の基本的欲求が利己的で他人を喜ばすことを考えないからです。神は「自分のことばかりでなく、他人のことを考えなさい。」「隣人を愛しなさい。」と教えておられます。是非、参考に致しましょう。また、今年は NHK 特別番組で「人体は巨大なるネットワーク」というキーワードで放映されます。これは人生観をかえるほどの内容となることでしょう。是非、ご覧になって、一年の計に厚みを加えましょう。

前理事長 池田公榮



2・3号認定児
新規入園申込受付期間
1/31(水)～2/2(金)
定員に限りがあります。お早めに
市福祉事務所へお申込み下さい！
必要書類は園にもございます。

1月の行事予定

9日(火)	始園式(1号午前保育)
11日(木)	誕生会(1・2月生まれ)
〃	弁当の日
20日(土)	持久走大会 弁当の日
24日(水)	持久走大会予備日

2月の行事予定

8日(木)	おゆうぎ会予行
17日(土)	おゆうぎ会
19日(月)	振替休日(1号)
22日(木)	誕生会(2・3月生まれ)
23日(金)	遠足
24日(土)	めぐみ組誕生会 (12～3月生まれ)
27日(火)	シオンの仲間大会



希望を忘れず

新年明けましておめでとうございませう。皆様ご健勝の内に、二〇一八年(平成三〇年)をお迎えになられたことと存じます。本年も、皆様にとつて希望に満ちた素晴らしい年でありませう。心からお祈りいたします。今年(二十三年)には、今上天皇のご結婚や東京タワーが竣工しました。その後も成成は大きな出来事が多くあり、変革の年ですが、同級生たちは一足先に還暦や定年を迎えていくので、否が応でも変革の年とならなければならないところですね。「たとえ世界の終末が明日であろうとも、私は今日、リンゴの木を植える。」ルーミアの作家、コンスタンチン・ゲオルギウの言葉です。希望というこの本質を的確に語った言葉のように思います。世界の終末を目前に、何年後かに実を結ぶリンゴの木を植えることは無意味な営みだとも言えますが、敢えてそれが出来るのも人間だということ。たとえ楽天主義と言われなくても、絶望より希望に生きる方が、より人間的な姿ではないでしょうか。明日という日がなくてもリンゴの木を植える、たとえ希望がなくても明日という日があれば、二つの言葉は奥底で繋がるように思います。幼き日にこそ、達成感や挫折感を体験することによって、他者への思いやりと自分自身を励ます力を育んでいきたいものです。

さて、数年前から幼児教育の無償化への動きはありましたが、今回の衆議院選を経て、保育の無償化まで政策のバックパケジに入ることになりました。もちろん、子育て世代の負担軽減については、誰も異論はないと思います。しかし、待機児や保育者不足の解消が進まないまま、所得制限のない無償化に立入れば、保育現場が一層混乱することは明らかです。報道でご存知のとおり、全国的に保育者が不足している状況と聞きます。郡部、中でも離島の保育者不足は危機的状況と聞きます。我が園の二園は、現状では何とか運営できておりますが、退職や育休が重なれば、園児の受け入れも相当厳しくなります。特に新卒の保育者(幼稚園教諭保育士)が帰郷せず、数年与えられないのが大きな課題となっております。何とか知恵を絞って人材確保に努めて参ります。聖書に「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」とあります。いかなる状況でも希望の光を灯してくださる神様に感謝です。三学期は、年長児にとつても園生活最後の学期です。幼児教育の仕上げの時でもあります。それぞれの子どもたちにとつて、思い出深い魅力いっぱいの日々にするよう努めてまいります。保護者の方にも行事等でご協力をお願いすることになります。が、本年も宜しくお願いたします。

学園長

今井和子先生の
「0歳児から5歳児行動の意味とその対応」より
「1歳児 いたずらばかりする」

悩み

毎日いたずらばかりで
ほとほと困っています

行動の意味

小さな科学者が一生懸命学習している姿です

ティッシュを何枚も引き抜いたり、ダンスの中身を床に全部出しちゃったり。いたずらは、興味、関心、好奇心の賜物で、探究心の旺盛な小さな科学者が、頭の中で「これはどうなってるの?」と、考えながら学習している姿なのです。手は突出した脳ともいわれるように、その動きに子どもの興味が表れます。自分の要求に従って行動することで、自分のやりたいと思ったこともやれるんだという意識が芽生え、自発性が育っていきます。いたずらをくり返すことで、同時にものを扱う力も育っていきます。

対応法

たまには大目に見て、やらせてあげましょう

子どもが目や手を動かして夢中になっていたり、自分の世界に没頭している様子があるのなら、子どもの成長のために大目に見てあげることも大切。いたずらを否定して厳しく叱ると、だんだん自発性が育たなくなり、自分からいろいろなものに対して働きかけなくなります。

「これくらいだったら、やってもいいかな」ということは、許容してあげましょう。ただし、いたずらされて困るものは、なるべく子どもの手の届かないところにしまっておくこと。また、危険なことやどうしても困ることはやめさせる必要があります。その場合、単にダメというのではなく、「お花抜いちゃったら、植えたおばあちゃんが悲しがるよ」など、なぜダメなのかを真剣に訴えることが、思いやりの気持ちにもつながります。

